

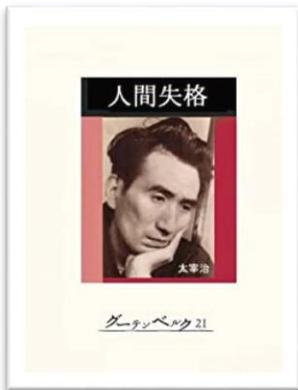


今月号は、国語の先生方からの「クリスマスプレゼント」
各先生から、おすすめ本の紹介です。



松井大助先生より

『人間失格』 太宰 治 著



私が高校生の頃、人間失格を読み、強い衝撃を受けたのを覚えています。決してすがすがしい読後感ではないが、どこかしら主人公と自分に近いものを感じ、安心感のようなものを得ました。その後、何度も読み返すこととなりますが、その都度新しい発見をさせてくれる作品です。特に最後のセリフがグッときます。

『弟子』中島敦 『太郎物語』曾野綾子 『春琴抄』谷崎潤一郎
『深夜特急』沢木耕太郎 『彼女は頭が悪いから』姫野カオルコ
ほか全 10 冊、松井先生のおすすめ本を図書館にて紹介中です！

野中誠也先生より

『生命式』 村田 沙耶香 著

『コンビニ人間』で芥川賞を受賞した作者による、生命とは、身体とは、人間とは何かを次々と考えさせられる短編集。読みやすく、ストーリーが身体の中に入り込んでくる感覚を是非味わってください。



『十二国記』小野不由美 『神様の御用人』浅葉なつ 『本日はお日柄もよく』原田マハ
『君たちはどう生きるのか』吉野源三郎 『蜜蜂と遠雷』恩田 陸
ほか全 10 冊、野中先生のおすすめ本を図書館にて紹介中です！

檜垣 駿先生より

『坊っちゃん』 夏目 漱石 著



漱石の作品の多くには、無骨で正直で不器用な男が登場します。『坊っちゃん』では「山嵐」でしょうか。

少し違うけれど「こころ」の場合は「K」ですね。現実世界で実現しづらい彼らの生き方に心ひかれ、学生時代には漱石の作品をよく読みました。短めの『坊っちゃん』、真っ直ぐな「山嵐」から、まずどうぞ。

『青春論』亀井勝一郎 『墮落論』坂口安吾 『職業としての学問』マックス=ウェーバー
『菊と刀』ルース・ヴェネディクト 『寝ながら学べる構造主義』内田 樹
ほか全 10 冊、檜垣先生のおすすめ本を図書館にて紹介中です！